第３回インフォメーション・ヘルスアワード『アイデア部門』　応募用紙

○アイデア名　多対一の構図を可視化する投稿前ピクトグラム UI

○応募者氏名
藤田亜由美

○解決したい情報環境をめぐる課題

SNS や掲示板など、ネット上で発生する誹謗中傷の背景には、「間違っていることを正すのは良いことだ」「間違いを放置してはいけない」という正義感に基づいた指摘がある。特に教育現場や社会全体では、「間違っていることに間違っていると言うのは偉い」とされる価値観が根付いており、個人が自分の指摘行為を「善意」や「注意」と捉えているケースも少なくない。

しかし、こうした“正義感”に基づく投稿が多数重なると、結果として「多対一」の構図による集団的な吊し上げ・追い詰めとなり、誹謗中傷や心理的攻撃として機能してしまう。問題は、加害者の多くがこの「集団加害構造」に無自覚な点にある。

○アイデアの具体的な内容（どんなもので、どんな人が、どう使うと、課題が解決できるのか）

本アイデアは、SNS 投稿やコメント機能に連動する形で、**投稿前に“集団的加勢”の構図を可視化するインターフェース（UI）**である。対象ユーザーは SNS を日常的に利用する一般ユーザー（10 代～30 代）とし、ブラウザの拡張機能や SNS の API と連携した実装を想定している。

ユーザーが書き込みを行う直前、システムが同一話題・類似表現の投稿が過去に何件あったかを検出し、その情報をピクトグラム（人型イラスト）で表示する。

例）
・「投稿」ボタンを押下する際にシステムが投稿内容を解析、同一・類似件数を検出
・実際に投稿する前に、画面に「すでにこの内容は＊＊人が投稿しています」と表示。
・過去の投稿人数が多人数であった場合に、「この投稿は、既に多くの人が同様に指摘しています」という
　注意喚起文と、下図のような人数規模を反映したピクトグラムを表示。

（ピクトグラムのイメージ図）

本 UI によれば、投稿者自身が「今から書こうとしていることは、すでに多数派の加勢になる」と視覚的・直感的に理解することができる。これにより、ネット上での集団加害を抑制することができる。

○アイデアは未発表のものかどうか。すでに「試作」「試行」している場合は、新たに付け加えたいアイデア（ブラッシュアップするポイント）など

本アイデアは未発表のものである。

○アイデアを思いついたきっかけ

SNS 等で誹謗中傷が問題になった事例を見ていて、投稿内容自体には「正しいことを言っている」ように見えるものも存在していると感じた。しかし被害者の立場になって考えてみると、同じような指摘が何十件も繰り返されることで、指摘の“正しさ”よりも“集団による攻撃性”の方が強く印象に残り、恐怖感・絶望感に苛まれるのではないかと思った。

そして加害者（投稿者）の立場になって考えると、おそらく投稿時には自分の投稿を「正しい」と感じているのではないか、集団となって攻撃するつもりは一切なかったのではないかと思った。

このとき、もし一人ひとりの投稿者が、「自分がすでに何人目の“指摘者”なのか」・自分の投稿が集団いじめになり得るかを知っていれば、こういった事例は少なくなるのではないかと考えた。